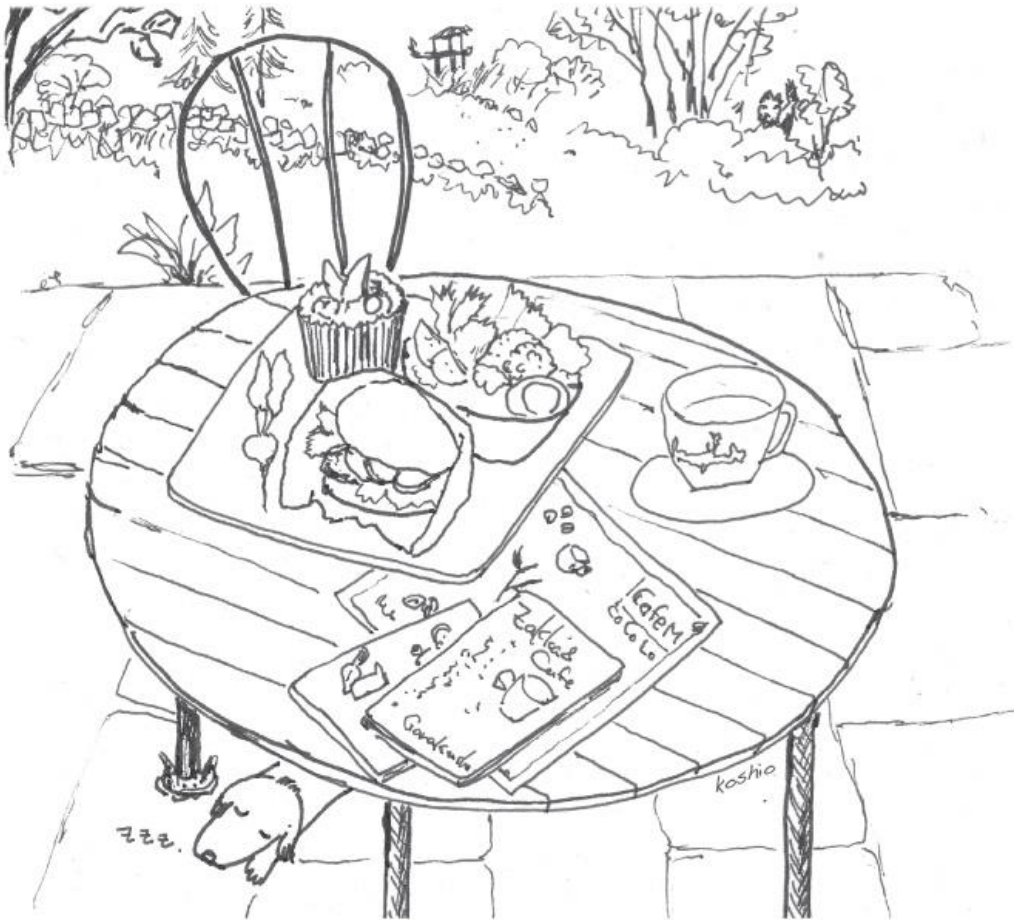


# くらぼよ

くらぼよとは  
Collaboration  
コラボレーション  
(共同・協働)と  
~しようよの組合せ

みんなで  
男女共同参画社会実現  
に向けて活動しようよ

第36号 2016・春



- ✿ シングルマザーのおしゃべりサロン
- ✿ ひとりの親家庭の現状と問題
- ✿ 小巻健さんに聞くホワイトリボンキャンペーン
- ✿ 女性のための相談室から
- ✿ くらぼよステーションのお知らせ

平成 28 年度「男女共同参画週間」(6 月 23 日～29 日)キャッチフレーズ

“意識をカイカク。男女でサンカク。社会をヘンカク。”

## 男女共同参画週間記念講演会

「元いじめられっ子の女性落語家奮闘記」 落語家 桂 ぽんぽ娘<sup>こ</sup>さん

オープニング 小巻 健さんのギター演奏

平成 28 年 6 月 25 日(土)13:00～15:00 会場:三木市立教育センター4 階大研修室



まず、茂木さんが活動しているWACCA（わっか）の紹介がありました。WACCAは、様々な困難を抱え、孤立しがちな女性やシングルマザーとその子どもたちのために、NPO法人ウィメンズネット・こうべが運営しています。シングルマザーと子どもたちの成長と仲間づくり、女性たちの居場所や仲間づくりの場で、就労準備支援やひとり親家庭の子どもの学習支援などを行っています。活動を続ける中で、参加者同士の仲間意識が育ち、お母さんたち自身も心のゆとりが持てるようになり、子どもたちは徐々に自主性が芽生え、自分で勉強に取り組むなどの成果もでてきたとのこと。また、子どもたちの勉強を手伝うボランティアさんからは、「やりがいがある」「協力できて嬉しい」などの感想があるそうです。

次に、茂木さんを中心に、参加者は自己紹介の後、興味をもっていることを話しました。仕事や子育ての悩み、家族との関係やコミュニケーションなどにも話が広がりました。参加者からは「三木でもシングルマザー同士が情報交換や交流ができる場があればいいな」との意見が出ました。このサロンは、三木市男女共同参画センターの運営委員会が初めて企画運営しましたが、運営委員自身も勉強できる良い機会となりました。

## WACCA わっか

〒653-0036 神戸市長田区腕塚町5丁目5-1-206

(JR新長田駅南徒歩5分)

月～土曜日または日曜日(水曜日休み) 10:00～16:00

(TEL・FAX) 078-798-6150

(E-mail) wacca@mbr.nifty.com

(URL) <http://wacca-nagata.jimdo.com/>

**NPO 法人女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ**

(TEL・FAX) 078-734-1308

## ひとり親家庭の現状と問題

平成23年全国母子所帯等調査によると母子所帯は123.8万所帯、父子所帯は22.3万所帯(母子または父子以外の同居者がいる所帯を含める)です。ひとり親になった理由は、母子が離婚:80.8%、死別:7.5%、未婚の母:7.8%、父子では離婚:74.3%、死別:16.8%で、どちらも年々離婚が増え、死別が減少しています。

母子家庭の悩みの一つは経済的な問題です。母親の81%が就労していますが、そのうち40%が正規雇用で、パート・アルバイトなどが47%です。母親自身の平均年間収入は223万円ですが、就労収入でみると、正規雇用では270万円、非正規雇用では125万円しかありません。非正規雇用の母親の所帯では、毎月約4万円の児童扶養手当などを加えても、厳しい生活を余儀なくされています。生活保護の受給は母子家庭、父子家庭の約1割のみです。収入の低い家庭では、子どもの教育にかかる費用や時間も少なく、高等教育を受けさせることは難しくなり、貧困が連鎖する可能性があります。一方、父子家庭は、従来は就労収入が多く安定していましたが、非正規雇用が増え収入が減少する傾向です。一般に、女性は非正規雇用が多く所得が低いので、貧困に陥りやすい状況があります。シングルマザーだけでなく、未婚の女性や高齢のシングル女性も同様です。

現在のひとり親家庭は親族の手助けが期待できない場合も多く、近所や知人の手助けも減っています。様々なグループやNPOの、子どもたちの学習支援や生活支援などの活動は増加していますが十分ではありません。血縁の子どもや孫だけでなく、社会の宝としての子どもを地域で見守り支える活動も重要ではないでしょうか。

また、一般的には子どもと夫婦の家庭を基準に考えがちですが、ひとり親家庭などいろいろな家庭があることを再認識して理解を深めていきたいものです。

### 母子・父子家庭相談 (母子・父子自立支援員が応じます)

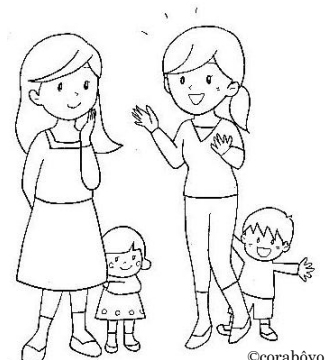
経済面や子どもの養育、就労、離婚問題など生活全般にわたる相談

◎ 月～金曜日 9:00～16:00

◎ 電話相談、面接相談 (予約制)

◎ 場所: 子育て支援課 (三木市立教育センター2階)

◎ 問い合わせ: 子育て支援課 (TEL) 0794-82-0151



ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン (WRCJ) とは、男性による女性への暴力をなくすため、男性が主体となって取り組む世界規模の啓発運動のことです。三木市在住でこの運動に参加されている小巻健 (こまきたけし) さんに、4月6日、男女共同参画センターにてお話をうかがいました。小巻さんは「取り上げて頂いて嬉しいです」と快く質問に答えてくださいました。



— この運動に関わったきっかけは

DV被害者シェルターの運営に関わっている知人女性から、被害女性の抱える深刻な現状を聞きました。女性たちが必死でDV被害者支援活動をされていることを知り、自分も男性の立場で少しでも役に立ちたいと思いました。

— 関わられてどれくらいになりますか

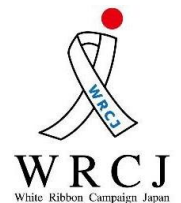
WRCは1991年にカナダで始まりました。日本では2012年に有志で関西を中心に「ホワイトリボンキャンペーン・KANSAI」として活動を開始し、私は立ち上げから事務局の一員としてお手伝いをしてきました。そして、この運動を全国規模で広げようと、本年4月に仲間と共にWRCJを設立しました。

— 具体的にどのような活動をされていますか

活動の目的が「啓発」なので、WRCJの理念・行動をSNSで発信したり、様々なラジオ番組に出演させていただいたり、啓発チラシを各所に置いたりしています。今後は講演や、音楽イベントも企画しています。

— WRCJの活動を通して何を感じますか

私が育った家庭では暴力とは無縁でしたし、共働きをしていた両親の姿を通して、偏った男女の役割分担はおかしいと思っていました。そのような私が、WRCJに参加して、男性の側から世間の男性はこうあるべきという価値観を変えたい！まず、自分が生き易い社会にしたい！という強い思いを感じるようになりました。



— 活動されてきて嬉しかった事は

年代や業種の違う多くの方に出会えました。「暴力を振るわない男性こそがカッコイイのだ」という考えに共感する仲間たちと楽しく活動できることです。また、今年の4月11日に岸和田市長が全国自治体首長初となる「フェアメン宣言」をされました。「フェアメン」とは、女性に暴力をふるわず、対等な相手として尊重する男性のことで、WRCJとしてこの宣言を今後さらに全国の自治体、企業、団体などに広げていきたいと考えています。

— これからの課題は何でしょうか

フェアメンの輪を広げるためには、「暴力」がいけないとの「気づき」が大事だと思います。そのためには、どちらかという暗い話を、いかにポジティブに、明るく広げていくかですね。この運動が世の中に空気のように広がってほしいです。

— 三木市男女共同参画センターへの要望がありましたらお願いします

WRCJといっても、日本ではまだ始まったばかりです。これから広く、深く広めていきたいと思っています。是非！一緒に何かやりたいですね。

— ありがとうございます



小巻さんは大阪音楽大学の出身でギター演奏もされます。終始にこやかに、でも真剣に沢山話して頂きました。DV被害の事を男性目線で、しかも「支援したい」側としての話をお聞きして大変勉強になりましたし、嬉しく思いました。フェアメンが一人でも多く誕生することを祈ります。



## 女性のための相談室から ～「リベンジポルノ」の被害にあわないために

『リベンジポルノ』は、ニュース等で話題になったので、知っている人も多いでしょう。これは、元配偶者や元交際相手が、拒否されたことの仕返しに、復讐（リベンジ）や脅しのため、相手の裸の写真や動画など、相手が公開するつもりのない私的な性的画像を無断でインターネット上に公開することです。

スマホや携帯等で簡単に写真や動画を写し保存ができるようになったため、性的画像が気軽に撮れるようになりました。好きな相手から求められると「嫌われたくない」と撮影を拒否できなかつたり、気軽に自分で自分の写真を撮り、LINE等で送信したりしています。

深刻な被害が増えたため、平成26年11月27日に『リベンジポルノ法（私事性的画像記録の提供等による被害の防止に関する法律）』が施行されました。今年3月に発表された警察庁のデータでは、平成27年度相談等件数は1,143件あり、被害者は女性が91.9%でした。年齢は20歳代が38%と一番多く、30歳代22.5%、19歳以下19.5%、40歳代14.9%、50歳代以上4.6%となっています。また、被害者と加害者の関係は、交際相手（元含む）63.4%と圧倒的に多いですが、次に多いのは知人友人（ネット関係のみ）11.4%、知人友人（それ以外）9.9%と、ネット上だけの関係の相手に自分の画像を送っていることがわかります。ネット上はとても心を開きやすく、実際は公の場であるのに、とてもプライベートな場所と誤ってしまい、気軽に送ってしまうようです。『デジタルタトゥー』と言われるように、ウェブ上に一度公開されるとずっと残り続け、完全に消すことはできません。危険性についての自覚が必要です。スマホを使い始めるときに、しっかり教育することが大切です。

もし、ネット上に性的画像を掲載されたときは、すぐに警察に相談してください。また、「写真を持っている」とか「ばらまくぞ」など不安になる言動があった場合にも迷わずに相談してください。いきなり警察に行くことに抵抗があるときは、こちらの相談室をご利用ください。被害にあわないために知識を持つことが必要です。

### 女性のための相談室

火曜・木曜

午前10時～午後4時

- 電話相談
- 面接相談（予約制）

女性問題相談員が女性の立場に立ち、問題解決に向かえるようサポートします。まずはお電話ください。  
TEL 89-2331



## こらぼーよステーション ～DV被害者のための新たな生活応援事業～

男女共同参画センターでは、ご家庭に眠っている生活物資を寄贈いただき、DV被害者支援団体へ寄付しています。ご協力をお願いします。

受付場所：三木市男女共同参画センター（三木市立教育センター3階）

受付時間：9：00～17：00（土・日・祝日・年末年始除く）

寄贈いただきたい物（未使用の物） ※食料品・薬は除く

日用雑貨（タオル・石けん・洗剤・時計など）、台所用品（食器・鍋など）、文房具、その他生活に必要なもの



### 三木市男女共同参画センター

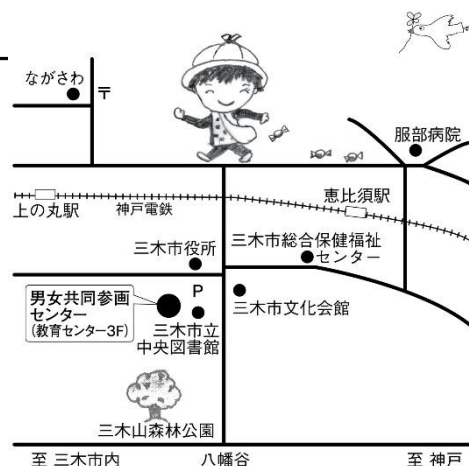
愛称 こらぼーよ

三木市福井 1933-12  
三木市立教育センター3階  
（三木市立中央図書館横）

TEL&FAX 0794-89-2331

開館時間 9：00～17：00

休館日 土・日・祝日・年末年始



### 編集委員募集中！

一緒に情報誌を作りませんか？  
男女共同参画に興味のある方、人と話すのが好き、文章を書いたりパソコンが得意、編集に興味のある方など、メールでの参加もありかな。一緒に活動してくれる方、募集中です。

企画編集：

情報誌こらぼーよ編集グループ

発行：

三木市男女共同参画センター